

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	21100
事業名	野外教育費					
評価担当課	所属名	教)生涯学習部 生涯学習推進課				
	課長名	村上 玄光	担当者名	三井美夕希・国奥大	電話番号	011-211-3872
施策名	主	将来を担う創造性豊かな人材の育成・活用				
	副					
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外		
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費					
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理					
事業内容	実施形態	○ 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ● その他				
	目的	短期	子どもたちに、異学年・異校種との交流や日常から離れた自然との触れ合いなど、様々な体験の機会を提供し、自主性や協調性を培う。			
		長期	自然体験活動等の機会を提供する事業を通し、野外活動の普及振興を図るとともに、子どもたちの生きる力を育む。			
	取組内容	①林間学校:夏休み中と冬休み中に、市内の特認校や野外教育施設等を会場として、市内小中学生を対象にテント泊や野外炊事、川登、雪中登山など多様な野外活動を展開する。 ②なかよしキャンプ:翌年度就学予定の幼児と、翌年度最高学年となる5年生児童が、自然体験活動を中心とした体験活動を協力して行う。				
	実施結果	夏季林間学校は、指導者(教員)と青少年山の家が連携し、動画コンテンツ4本を作成し市ホームページにて公開した。合計再生回数は387回(令和4年9月26日時点)。 冬季林間学校は、2会場3コースで日帰りにより実施し、102人(応募者数596人)が参加した。また、冬の自然体験フェスを開催し、青少年山の家会場は親子79組(応募者数278組)、WEB会場は23人(応募者数66人)の参加があった。 なお、なかよしキャンプは感染症の感染状況を踏まえ、夏季・冬季ともに事業を中止した。				
事業実施における工夫点	直接的な体験機会の提供には限界があることを踏まえ、オンラインコンテンツの配信や冬の自然体験フェスを実施し、身近な場所でも活用できる自然体験活動の普及啓発を行った。また、林間学校においては感染症対策として、宿泊での実施は行わず、日帰りによるプログラムを提供した。					
対象者	市内の幼児、小学生			開始	昭和52年度	終了 0 年度
関連法令・条例・要綱等	社会教育法、学校教育法 中央教育審議会答申(平成19年1月、平成25年1月)					
他都市の状況	他都市ではそれぞれの実情に合わせた事業を展開しており、例として横浜市では市内外に5か所ある野外教育施設でリーダー養成に取り組んでいる。					

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算
事業費	985	6,700	3,021	7,100
うち特定財源	3	1,277	2	1,277
人工	2.0	2.0	2.0	2.0
人件費	14,400	14,400	14,400	14,400
計(事業費+人件費)	15,385	21,100	17,421	21,500
事業費の内訳	令和3年度決算	人件費:785千円 報償費:420千円 委託費:1,272千円 その他:544千円		
	令和4年度予算	①人件費:785千円、報償費:2,300千円、役務費350千円、その他:345千円 ②役務費:280千円、委託費:1,870千円、使賃料:750千円、その他:420千円		

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	林間学校応募者数									
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定							
	0人	641人	596人	700人							
活動指標2	指標名	なかよしキャンプ参加者数									
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定							
	0人	89人	0人	73人							
成果指標1	指標名	林間学校定員充足率									
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標							
	0%	90%	92.90%	95%							
成果指標2	指標名	なかよしキャンプ定員充足率									
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標							
	0%	82.70%	0%	81.10%							
項目	判定	理由									
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	B	①夏季は、感染症対策の観点から参加者を募っての事業は中止したが、指導者による既存プログラムの検証や、オンラインコンテンツの作成・発信を行い、身近な場所でも活用できる自然体験活動の普及啓発を図った。冬季は感染症対策を徹底し、日帰りにより100人を超える子どもたちに自然体験活動の場を提供するとともに、冬の自然体験フェスを青少年山の家会場(親子79組が参加)及びオンライン(23人が参加)で開催した。 ②新型コロナウイルス感染症の影響により、夏季・冬季ともに中止した。									
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	B	①感染症の影響による施設の利用制限等を受け、受入可能数が減少しているため、実施方法やプログラム内容を見直すなど工夫していく必要がある。 ②令和3年度は事業を実施できなかったが、次年度以降は年長児から小学生までを対象とし、より多くの子どもたちが参加できるよう、内容を見直し実施する必要がある。									
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	B	①現職の教職員と青少年山の家の職員が連携してプログラムを提供することで、宿泊学習でも活用できる教育効果の高いプログラムとすることができる。また、指導者として参加した教職員は、本事業で身に付けたスキルや指導法を学校における宿泊学習等での活動に還元できる。あわせて、次年度以降の運営体制を検討するため、関係団体との協議を継続していく。 ②令和3年度は事業を実施できなかったが、これまで同様、体験活動等に精通した団体への事業委託のほか、事業内容の見直しとあわせ、新たな担い手との連携について協議を行う必要がある。									
対象者の満足度 (対象者のニーズに込えているか)	B	①実施後に行ったアンケートでは、「家庭ではできない体験ができる」「コロナ禍で体験活動が減る中、開催されたことに感謝している」等の声が保護者から数多く寄せられ、満足度の高さと子どもの自然体験活動への市民ニーズの高さがうかがえた。 ②令和3年度は事業を実施できなかったが、より多くの子どもたちに体験活動等の機会を提供できるよう、事業の実施方法等について引き続き検討する。									
市民参加の実施	☐ 企画 ☐ 実施 ☒ 評価 ☐ 対象外 市民参加結果への対応 ☐ 回答 ☒ 反映										
今後の改善点	①感染症等の状況に応じた定員数の変更やプログラムの再編を行い、本市が事務局となっている現行の運営体制について見直しを進める。 ②事業効果をより広く波及させるため、事業内容の再構築を行うとともに、参加対象者を幼児から小学生に拡大する。										
前回の評価	☐ A ☒ B ☐ C ☐ 評価省略対象事業・前年度実施なし										
今年度取り組んだ見直し内容	①林間学校運営会事務局を関係団体に移管するため協議を行っている。 ②事業内容を再構築し、対象年齢を拡大して実施。		見直し効果額 (前年度)	0	千円						
今回の評価	☐ A ☒ B ☐ C ☐ 評価省略対象事業・前年度実施なし										
評価の理由	参加者やその保護者、学校からは高い評価を得ているものの、直接的な体験機会の提供には限界があり、事業の在り方や他団体との連携、情報提供の方法等について引き続き検討が必要である。										
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	☒ 改善 ☐ 現状維持 ☐ 休止・廃止									
		①林間学校運営会に新たに札幌市青少年山の家が加わり、事務局を青少年山の家に移管する予定。 ②身近な公園等において、年長児から小学生までを対象に体験活動の機会を提供することで、外遊びの習慣づくりや体力向上にも資することを目指す。継続実施に向け公園管理者等との連携も強化していく。									
	予算	☐ 拡充 ☐ 現状維持 ☒ 縮小 ☐ その他 林間学校運営会の体制見直しにより、林間学校に係る経費を縮減。		見直し効果額	4,500 千円						